

ワングル顧問の前田です。7月23日、白山日帰りで日焼けしてきました。金沢駅発 5:30のバスに片町金劇前で乗り、観光新道から室堂、御前峰、エコーラインを経て砂防新道です。市の瀬一別当出合間をシャトルバスが運行されている日には、最終便 (17:30) が鶴来まで延長運転されるので、バス利用の日帰りも可能となります。

北アルプス組2パーティの1つが計画書を持ってきました。当初計画では烏帽子岳一船窪乗越一針ノ木岳までヤルというので密かに拍手していたのですが、崩壊地形の話しが効きすぎたのか、雲の平の散策に変更となっていました。断層の割れ目から湧き出してくる船窪テント場のおいしい水の代りに双六一三蓮山腹の湧水も捨て難いといっておきましたが、予定コースは山頂を通っています。

ワングル顧問の前田です。金沢大学は先週で講義は終わり、今週からは前期期末試験です。集中講義もあって、8月上旬も大学に足留めされる学生もいますが、7月末から12日の合宿に出かけるという頼もしい計画書も出てきました。地図を示しての説明に、(現役)ワングルもまだまだ捨てたものではないと思いました。

ワングル顧問の前田です。遊行計画のPWというのも久しぶりですが、出かけるところも私の顧問期間ではなかった所です。

研究室の温度が34℃になったのでパソコン保護のためつい

にエアコン発動となりました。設定室温は29℃です。普段は風通しをよくして汗をかきかき勉強(昼寝?)です。1泊2日の人間ドックから東京でのクラス会(1960年入学)に出かけていた間に、夏合宿残り2パーティの計画書が届きました。8月5日には1999年度卒業のゼミ生の飲み会、8月25日~27日が恒例の劔岳追悼山行、お盆の雑踏を避けてその間にどこに出かけるか、私の計画書も作らないといけません。そのために白山日帰りで足慣らししたのですから。

8月25日~27日は恒例の劔岳追悼山行。初日は剣沢、2日目に平蔵のコル(遭難現場)まで行き、3日目に下山という日程です。私は、初日の集合地・立山駅からバスで称名滝手前まで行き、大日岳(大日小屋泊)。奥大日岳経由で剣沢、すでに平蔵のコルから戻っていた蒲原君のご両親ら一行に合流し、劔岳を前に鎌香を手向けました(実はこの日=8/26は鴨原良太郎君の命日)。26・27日参加のメンバーを加えて皆さんは

剣沢を登り返し、新室堂乗越で室堂に下山ですが、私は剣沢を下りました。実に久しぶりの裏剣歩きです。仙人池小屋泊、池の平幕営、仙人湯小屋泊と選択肢は3つありましたが、今までやったことのない仙人池小屋泊。28日阿曾原小屋経由で樺平、最終便のトロッコ電車で金沢に帰ってきました。

大日岳は、遭難事故さえ起こっていなければPWが歩いていたルートです。夕陽の劔岳を見る絶好の位置にありますが、ガスのため朝のシルエットだけで我慢でした。25日(金)、小屋はのびのびと休めたのですが、翌日は団体と頻繁に行き違いです。昔、称名から立山駅まで歩く覚悟で逆のコースをたどったときは(秋分の頃)、ひっそり静かな道だったという印象を持っているのですが、大きくない小屋にこれだけの人達が泊まるとなると大変だなと思いました。

それに比べると、8/28(月)の水平歩道は誰ともすれ違わず、下の廊下の期間以外はこんなものなんでしょうか。そういえば、真砂沢もひっそりしたもの。仙人池小屋のおばさんの話によると、三の窓のテントも近年はまばらにしか見えなくなったとのこと。そのくせ樺平では、あいかわらず団体観光客に座席整理券を占められて、順番待ちでビール飲み。仙人池小屋は、連泊客(高知県の酪農家)に私の2人になりかねないところ、北方稜線を小窓まで歩いてきた北海道のカップルを含む5人が加わり「盛況」。夕食の献立も焼き魚、天婦羅、冷奴もあって豪華、21時の消灯まで話しはつきず、ビールの空き缶ごろごろ。朝陽の裏剣がガスって写真の対象にならなかったことを償ってくれる、ゲミュートリッヒな(居心地のよい、くつろいだ)一晚でした。

「独り言」が長くなりました（実は、独り言よりは寝言を言う方が多いのですが）。大学は夏休み期間ですが、秋山を楽しむというPW計画が出てきました。今年は針の木雪渓も結構雪が残っており、紅(黄)葉にもまだ早く、何をもって「秋の山」とするのか、「?」という気持ちもしないわけではありません。しかし、新雪&紅葉の10月初旬は後期の開始です。教養部が存在していたときのように「秋休み」がありません。PW計画を出す積極性の方を評価したいと思います。

禁断の現役部屋

2000年ラオウ伝説 世紀末救世主伝説

説きはまさに世紀末！ 海を越え伝説は再び...

金沢大学ワンダーフォーゲル部 夏合宿 北海道パーティー

[行先] 北海道・大雪山

[日程] 00年8月7日～8月15日 5泊6日 予備2 非常1

[目的] ・北海道の山々や大自然を体いっぱい満喫する。

- ・低気圧を連れて本州を離れる。
- ・海を越え北海道で修行してくる。
- ・とりあえず怪我無く楽しい山行する。

[コース]

-1日目 金沢====福井====敦賀====東舞鶴====舞鶴港~~~~

0日目 ~~~~~海上~~~~~

1日目 ~~~~~小樽港-----南小樽====札幌====旭川====旭岳温泉
+++姿見-----旭岳

石室△

2日目 △旭岳石室-----旭岳-----間宮岳-----黒岳石室△

3日目 △黒岳石室-----黒岳-----黒岳石室-----白雲分岐-----白雲岳
-----白雲分岐-----

白雲岳キャンプ指定地△

4日目 △白雲岳C指定地-----高根が原分岐-----忠別沼-----忠別沼-
-----忠別岳-----

忠別岳キャンプ指定地△

5日目 △忠別岳C指定地-----ひさご沼分岐-----ひさご沼避難小屋-
-----トムラウシ岳

ひさご沼避難小屋△

6日目 △ひさご沼小屋-----化雲岳-----第一公園-----天人峽温泉==
==旭川駅

サブコース

△ 旭岳石室-----間宮岳-----北海岳-----白雲岳C指定地

エスケープ

(1) △旭岳石室-----姿見+++旭岳温泉

(2) 黒岳石室-----7合目事務所+++流星銀河の里

(3) 白雲岳C指定地-----白雲分岐-----銀泉台

[メンバー] L 清水健作(理-物3) s L 奥野岳志(工-土建
3) 医療

井澤寿予(理-物3)

河原一美(教-学校2) 西 大輔(工-人機2)

谷村一成(工-人機2)

[連絡員]

坂本一樹 090-0444-2241

角谷 誠 090-2833-0904

夏合宿2000 in 北アルプス

[日程] 8月8日～16日(8泊9日) 予備3+非常1

[山域] 北アルプス(上高地→槍ヶ岳→新穂高温泉)

[目的] 日本最高の避暑地での快楽生活

[行程]

<1日目> 金沢====富山====高山====平湯====上高地-----徳沢キャ
ンプ場△1

<2日目> △1----蝶ヶ岳ヒュッテ△2

<3日目> △2----常念岳----常念小屋△3

<4日目> △3----大天荘----大天井岳----大天荘△4

<5日目> △4----大天荘----燕山荘----燕山岳----燕山荘----大天荘
△5

<6日目> 大天荘----ヒュッテ西岳----殺生ヒュッテ△6

<7日目> △6----槍ヶ岳山荘----槍ヶ岳----槍ヶ岳山荘----千丈乗越---
-双六キャンプ地△7

<8日目> △7----双六C地----笠ヶ岳キャンプ場----笠ヶ岳----笠
ヶ岳キャンプ場△8

<9日目> △8----(笠新道)----新穂高温泉====高岡====金沢

☆ エスケープ・ルート

(1) 燕山荘----合戦小屋----中房温泉

(2) 水俣乗越----横尾キャンプ場----上高地

(3) 槍ヶ岳山荘----槍平小屋----新穂高温泉

(4) 双六キャンプ場----弓折岳----新穂高温泉

[メンバー]

L 小倉 亮(法-法3) s L 阿納真弓(文-人間3) 山本資治(工-
人機2)

日野綱貴(文-人間2) 吉森幸世(文-人間2) 森本達也(工-機
械1)

松山文枝(医-保健1)

[連絡員]

佐藤豪一郎 090-8090-8429 志賀寛人 090-1312-8649

角谷 誠 090-2833-0904

Millennium アジアの開きパーティー 夏合宿

[目的] 楽しい山行にするとともに精神を向上させる。

北アルプスの銀座通りが明石銀座に匹敵するのを見に行く

[日程] 8月1日(火)～10日(木) 9泊10日 予備3日 非常1日

[行程]

<1日目> 金沢====糸魚川====穂高--(タクシー)----中房温泉
(幕営)

<2日目> 中房温泉 ---- 合戦小屋 ---- 燕山荘(幕営) ----
燕山岳(往復)

<3日目> 燕山荘 ---- 大天荘 ---- 大天井岳 ---- ヒュッ
テ西岳(幕営)

<4日目> ヒュッテ西岳 ---- 水俣乗越 ---- 殺生ヒュッテ --
-- 槍ヶ岳山荘

(幕営) ---- 槍ヶ岳(往復)

<5日目> 槍ヶ岳山荘 ---- 双六小屋 ---- 双六岳 ---- 三俣蓮華
岳 ---- 三俣山荘

(幕営)

<6日目> 三俣山荘 ---- 鷲羽岳 ---- 雲の平キャンプ場(幕営
)

<7日目> 雲の平キャンプ場 ---- 雲の平山荘 ---- 祖母岳 --
--- ピーク

2463.9m(往復)

〈8日目〉 雲の平キャンプ場 ---- 水晶小屋 ---- 野口五郎岳
 ---- 野口五郎
 小屋(幕営)
 〈9日目〉 野口五郎小屋 ---- 烏帽子小屋(幕営) ---- 烏帽子
 岳(往復)
 〈10日目〉 烏帽子小屋 ---- 高瀬ダム ---- 七倉山荘
 ☆ エスケープ・ルート
 (1) 大天荘 ---- 燕山荘 ---- 合戦小屋 ---- 中房温泉
 (2) ヒュッテ西岳 ---- 水越乗越 ---- 槍沢ロッジ ---- 徳
 沢 ---- 上高地
 (3) 殺生ヒュッテ ---- 槍沢ロッジ ---- 徳沢 ---- 上高地
 (4) 槍ヶ岳山荘 ---- 槍平小屋 ---- 白出小屋 ---- 新穂高
 温泉
 (5) 三俣山荘 ---- 双六小屋 ---- 鏡平小屋 ---- わさび平
 小屋 ---- 新穂高温泉
 [メンバー]
 L 加藤菜就(工-物化3) sL 矢田部 桂(理-物3) 谷上 望(文-人
 間3)
 久原宗仁(文-史2) 福村岳代(教-障教2) 石山晶代(教-
 養別科)
 深作亮太(工-人機1)
 [連絡員]
 伊藤純司 076-263-8353 090-9900-2817
 矢内佑一 076-222-8908 090-1390-9887

石原 諭(経2) 中川拓哉(理-化1) 竹内雅幸(法
 1)
 [連絡員]
 志賀寛人 090-1312-8649
 角谷 誠 090-2833-0904

謎めいたPW

万太郎本谷 湯杵曾本谷 遊行計画
 [日程] 2000年8月19日~8月22日
 [行動予定]
 8月19日 (高崎集合)===土曜===取水口-----ノ滝--@--三ノ滝
 @:ピバーク地
 8月20日 @---三ノ滝---肩の小屋---土合---武能沢出合@
 8月21日 @---十字峽---大滝上---二俣@
 8月22日 @---朝日岳---土合
 サブコース(8月22日)土合---出合---大滝上---白毛門山---
 土合
 [メンバー表]
 リーダー 西脇幹雄(工-機械3) サブリーダー 久原
 宗仁(文-史2)
 3流クライマー 金吉史哉(OB) グル 佐川貴久(O
 B)
 新り込み隊長 笹田竜之(文-史4) 僕らのキャディ 志
 賀寛人(工-土建4)
 見習いクライマー 加藤菜就(工-物化3) みんなのソアラ 山
 本資治(工-機械2)
 [連絡員]
 矢田部桂 090-1394-7688 杉村明慶 076-261-3458

2000年夏合宿 南アルプス中南部Party

[目的] 南アルプス中南部の3,000m級の山々を縦走する。
 [日程] 7月31日(月)~8月12日(土) 11泊12日 予備4日 非常1日
 [行先] 南アルプス中南部
 [行程]
 1日目(7/31) 金沢駅++++平岡==(タクシー)== 易老渡 ---
 面平(幕営)
 2日目(8/1) 面平 --- 易老岳 --- 光小屋(幕営) --- 光岳(往
 復)
 3日目(8/2) 光小屋 --- 易老岳 --- 茶臼小屋(幕営)
 4日目(8/3) 茶臼小屋 --- 上河内岳 --- 聖(幕営)
 5日目(8/4) 聖小屋 --- 聖岳 --- 兎岳 --- 中盛丸山 --- 百間
 洞ノ家(幕営)
 6日目(8/5) 百間洞ノ家 --- 赤石岳 --- 荒川小屋(幕営)
 7日目(8/6) 荒川小屋 --- 中岳 --- 恵沢岳(往復) --- 高山裏露
 営地(幕営)
 8日目(8/7) 露営地 --- 板屋岳 --- 小河内岳 --- 烏帽子岳 ---
 三伏峠小屋(幕営)
 9日目(8/8) 三伏峠小屋 --- 本谷山 --- 塩見小屋 --- 塩見岳
 --- 雪投沢(幕営)
 10日目(8/9) 雪投沢 --- 能ノ平小屋(幕営)
 11日目(8/10) 能ノ平小屋 --- 三峰岳 --- 間ノ岳 ---
 北岳山荘(幕営)
 12日目(8/11) 北岳山荘 --- 北岳 --- 北岳肩ノ小屋 --- 白根
 小池小屋 --- 広河原==(バス)== 甲府駅
 ☆ エスケープルート(1)茶臼小屋 → 畑薙大吊橋→畑薙第一ダム
 (2)聖平 → 聖沢吊橋 → 聖岳登山口 → 湛島
 (3)百間洞 → 赤石コル → 赤石小屋 → 湛島
 (4)荒川小屋 → 赤石コル
 (5)三伏峠 → 塩川小屋
 [メンバー]
 L 西脇幹雄(工-機械3) sL 杉村明慶(教-人環3) 医療 角田
 幸久(経2)

2000年 後立山P・W

[目的地] 後立山
 [目的] 秋の山を楽しむ
 [日程] 9月11日~15日
 [コース]
 1日目 金沢 ### 信濃大町===扇沢---大沢小屋▲(幕営)
 2日目 大沢小屋---針の木小屋---蓮華岳---針の木小屋▲
 3日目 針の木小屋---針の木岳---赤沢岳---新越山荘---種池山荘
 ▲
 4日目 種池山荘---爺ヶ岳---鹿島槍ヶ岳---爺ヶ岳---種池山荘▲
 5日目 種池山荘---扇沢===信濃大町 ### 金沢
 [サブコース]
 3日目 針の木小屋---新越山荘(泊) 4日目 種池から爺ヶ岳
 ワンデリング、種
 池山荘▲
 [メンバー]
 L 山本資治(工-人機2) sL 加藤菜摘(工-物化3)
 医 谷村一成(工-人機2) 林 司(理-M1)
 森田善文(工-M1) 矢内佑一(工-物化4)
 角田幸久(経-2) 竹内雅幸(法-1)
 [連絡員]
 谷上 望(文-人間3) 076-232-7867
 井澤寿予(理-物3) 076-235-2767

卒業旅行に海外が定番になり、海外研修を目玉に入学案内を作成している学校もあります。若者に、外国は身近になりました。中でもアジアは、安く、民族ルーツが同じゆえの親近感と異文化感が交錯して、人気があります。

夏合宿後から秋休みにかけて、もちろん個人旅行となりますが、インド1、ベトナム2、ネパール2名の現役が、バックパッカーの旅に出ていきました。賛否かといえば、体力もあり我慢もできて、時間が何とかなる若い時代に、旅はすべきものでしょう。一応それぞれの事情を聞いて、ネパール行き of 二人に報告を書いてもらいました。

個人山行が認められるようになってから数年、今はいい意味での「部とは？」の問い直しが始まっているようです。長年もたれることのなかった月例会（昔の月毎の総会）も開催していると聞きました。若いっていいですね！

相棒の清水君が、絶賛の写真。

旅への期待と若さで弾けんばかり。

【ボータナートにて 矢田部】



ネパール日記

矢田部 桂

9月17日

午前2時に金沢駅。夜行特急で京都に着くと六時くらい。その後‘はるか’で関西国際空港まで。すごくいいお天気である。日本でも外国のどこでもいいから山に登りたくなってしまう。はやく山にいききたいなあー。うずうずしてしまうのであった。

10:30にロイヤルネパール航空のチケットを受け取り、12:55に日本出発。はたして無事かえてこられるだろうか、などと考えながらぼろい機体に身をまかせる。食事は二回でた。うまいうまいとほおばっていたが連れの清水はあまり良くないといった表情。彼は飛行機に乗り慣れている（らしい？）のでよく比較ができるのだ。私にとっては初めての海外なので右も左も分からない超初心者である。悔しいので始終落ち着いたふりをしていよう。

カトマンズのトリブヴァン空港には20:00に到着。タクシー及びホテルの客引きの群がりを掻き分けて、かねてから予約しておいた現地旅行代理店の車でタメル地区のホテルへと向かう。あたりは電灯もあまりなく薄暗かったが人は沢山いてこんな暗がりでもなにかすることがあるのか、とおもった。部屋に案内され、とにかくのどが乾いていたのでビールで清水と乾杯。ぬるくてもおいしいビールがあるんだということを今日この場ではじめて知った。

近くのレストランで遅い夕飯。水牛のモモ（蒸餃子）、ダルバート（日本でゆうところのご飯と味噌汁のような定食のこと）をいただく。かなりおいしくて簡単に感動してしまう自分がかなり恥ずかしく思ってしまう。これからこんなうまいものがたべられるのだ、と明日から楽しみである。

9月18日

カトマンズの朝は早い。6:00からドタバタと街全体が動きだしている。あまりにうるさくて自然と起きてしまった。軽く食事を済ませた後、旅行代理店にいつて今回のトレーニングに必要なチケット、パーミットを手配する。山の地図を買い求めた際、店員がお

つりをごまかそうとするが、あまりに下手なのでばれぱれである。すこしおもしろかった。この日はいろいろ買い物をしたが、なんちゃって商品が沢山おいてあり、これらもおもしろかった。

夕食はまた、モモと焼きめしをたべる。これまた日本とは違う米であり、大変おいしい。いくらでもたべられそうである。モモはというそう、金沢で有名な数字が名前にはいつている某餃子店のやつにそっくりである、というとわかりやすいか。

9月19日

7:00近くのおっさんが何回も何回もセキの大合唱。昨日同様うるさくしておきてしまう。予定では今日ルクラに飛ぶことになっていたのだが、数時間またされたあげく飛ぶことはなかった。おかげでテンプー（オート三輪）にのってボダナートへゆくことにする。そこは広く、きれいですばらしいところだった。一人のオジさんにあっていろいろ話した、とはいってもネパール語は全然分からないのだが。もう一人、青年に会って彼にいろいろ案内してもらった。

夕食を食べていると雨が降り出した。はあ、明日のフライトが心配である。これ以上飛べなかったらトレッキングの予定そのものが怪しくなってしまう。

9月20日

怪しい天候であったが、なんとかイエティ航空は飛んでくれた。ルクラに。8:30にトリブヴァン空港を離陸して一時間ほど雲の間を潜り抜け、山の斜面を強引にならしたようなルクラ空港が見えてきた。

ルクラは滑走路がかたむいており、変わった空港である。機体からおりてトレッキング客だとわかるやいなやガイドが群がってくる。なかには日本語を話すのもいてそれを聞くと、いかにガイドが必要であるか、などかなり誇張表現していたが特に意地はって必要ないというわけでもなく、いてもいいか、という感じでこの人にガイドをお願いすることにした。名前はニマ。(後にこの名前が生涯忘れられないものになるとはこの時微塵にも思っていなかった)

ニマと打ち合わせをし、10:00出発。道は歩きやすく、清水のトレッキングシューズよりも私のランニングシューズのほうが合っているようだ。さっさと軽快に歩いて15:00にモンジョのロッジに着く。今日はここで泊。そういえば朝からのどが痛む。原因は不明である。うーん心配だ。なんにもないといいが、体調には気をつけよう。それと夕食時にニマにすすめられたどぶろく、かなり酸っぱかったぞ、あしたは下るかもしれない、胃腸関係も心配だ。

9月21日

6:00起床、ニマが起こしに来るが山で朝早いのに慣れている我々はとっくに起きている。外は昨日に引き続き曇。どんよりしている。

7:00出発。気がつくとき昨日ののどの痛みは引いていた。異様に酸っぱいどぶろくも無事わが胃腸は処理してくれたようである。よかったよかった。ん？坂になると清水の足どりが悪い、明らかにばてている。大丈夫かな？

9:20ナムチェ着。休んでいると日本人に会う。山にはじめての日本人。日本語がなつかしい。ここで昼飯を取る、ニマの知り合いの家だ。

13:00ナムチェ発。これからはだんだんと標高も高くなってきて坂もきつくなってくる、荷物はたいして持っていないのにこんなに疲れるのはやはり標高のせいかな？かなりしんどい。体が時間を経つにつれ確実におもくなっていくのが分かる。清水はさっきから黙りこくっている。私以上に疲れているようだ、元気づけようと話しかけてもうわの空。大丈夫かな？

15:50タンボチェ着。ロッジにつくと疲労と空腹で体を脱力感が覆っていた。少し頭に違和感がある、頭痛とまではいかないがもしかして高山病？清水も同じ症状を訴えている。もし初期の高山病ならこれから高度を下げなくてはいけない。しかしそうすると目



【ヒマラヤは夏の雨期に雪が積もることになる。この日、雨期が明けたよう。中央、雪煙をあげるエベレス。右、ヌブツェ。】

的地まではいけなくなってしまう。とりあえず頭の違和感は気のせいにしておいて明日の様子をみてから判断しよう。夕食は高山病に効くといわれているにんにくスープとダルパートで栄養をつける。

9月22日

初めての晴。ローツェはじめ360度見渡す限りのすばらしい景色。エヴェレスト確認！ここぞとばかりに激写しまくるわれら日本人約2名。

9:00タンボチェ発。今日はペリチェまで、そこで高度順応1日をとることにする。そこまでは下りもしくは平行移動なのでそんなに疲れることはない（はず）。

10:45パンボチェ着。清水は確実に頭痛を感じはじめている。気のせいではない。しかもたいした道でもないのに妙に疲れやすいみたいである。そこで今日はペリチェは諦めてここで泊。ここで休んで高度順応になればよいのだが…。

ここのロッジのダルパートは大変おいしかったが、小石が入っていて思い切り噛んでしまって歯がかけてしまった。うう。この日、ニマの友人が高山病にかかってヘリを呼ぶというかなりの重症らしい。あらためて高山病の恐ろしさを知る。やはり清水はこれ以上高度を上げることは危ない、明日一人で高度を下げることも考える。

9月23日

6:00に起きると今日も快晴である。ちょうど日の出時間で空がなんともいえない幻想的な色をかもし出している。昨日よりも山奥にきているので山が迫っている感じ、あらためて魅入ってしまう。

10:20歩き始めて小1時間ばかりして、清水は体力の限界なのかかなり辛そうな表情で、一人で高度を下げる決心をする。今日の出発地点まで戻ってみると言っている。その後、後ろ髪を引かれながらニマとともにペリチェに向かう。清水よ、俺が戻るまで元気でいてくれ！などと映画の1シーンみたい。私とニマは一応ペリチェまで行き、明日にパンボチェまで下って清水と合流することにする。

11:50ペリチェ着。途中でまた日本人に会った。彼はかなりのネパール通でもう数十回来ているそうだ。福井からいらっしやっていることもあり、しかも驚いたことにワンゲル部員の一人のご両親をよく知っている、ということでいろいろお話を聞かせてもらう。山や、カトマンズでのアドバイスを沢山いただきました。

9月24日

6:00起床。辺りを散策してみる。きょうもいい朝焼けである。思えば清水は高度が上がるにつれて、体調がおかしくなってきたが自分のほうはというと全く逆で、むしろ高いほうが体に合っているようだ。たしかに空気もうまいし、めしも好みに合っている。

9:00パンボチェに向け下る。パンボチェのロッジには清水が死にそうな顔で待って

いた。これは確実に高山病である。もっと高度を下げなければ！！すぐに今後の打ち合わせをして清水ひとりナムチェまで下ることにする。私はこのパンボチェからアタックできるというタボチェピークに明日行くことにした。その後速攻で下ってナムチェで清水と落ち合うのだ。

清水の下っていく後ろ姿を見ながら、あすの登り～生涯で一番高い標高へどれだけ行けるのか期待と不安の入り混じった気分を味わっていた。その日は夕食をお腹いっぱい食べ、明日に備えるとする。4：00スタートなので早く床に就かなければならないのだが興奮してなかなか寝付けない。

9月25日

3：30に起きる、準備を整える。ワンデリング装備だ。4：00発の予定なのにニマは全く起きる気配が無い。起こしに行く。おいっ！おきろ！

外はまだ闇につつまれている。月はでていない。しかし満天の星空がその日の天候を教えてくれた。そっ、それにしても寒い！懐中電灯で照らしながら細い道を歩いて行く。5：30頃ようやくあたりが明るくなってきた。が、ガスが立ち込めて山々を拝むことはできない。もしかしてずっとこんななのか？不安が募る。

日本のどんなスキー場よりも急で開けた草原をひたすら登って行く。上に行けば行くほど急になっているのだ。直登しようとしても足首の関節は可動領域をゆうに越えている。斜めに登る。日本でこの位斜度があったら土がみんな流れていってしまうだろうな。この斜度のせい、酸素の少ないせい、あるいはどちらのせいかもしれないがどんなにゆっくり登っても鼓動が異様にはやいし、呼吸も乱れる。タンボチェまでの登りも辛かったがこれはもう次元の違う辛さである。ツール・ド・能登のラストぐらいしんどかった。まあ、心配していた頭痛のほうは全然感じなかったのは幸いである。

ピークの近くに着くとそこではもう雲を突き抜けて雲海に浮かぶ山々と今、まさに昇らんとしているご来光を拝むことができた。感無量である。つんと身が締まるような気温の中、この瞬間が間違い無くこの旅のピークであり、もっとも心に刻み込まれた場面である。ただ清水と共にこの地に来られなかったのは残念である。彼は今ごろ下山しながら高山病と戦っているのだ、そう思うと一刻も早く彼の元に戻らなくてはならないという使命感に刈りたてられた。

下りはさすがにはやいもので、気が急いでいたせいもあるがナムチェまであと距離にして半分というところまでかっ飛ばしてやってきた。が、そこにいるはずのない清水が道端で座り込んでいる。どうゆうことだ？たしかに眼には光が無くうつろである。彼は動くこともできないほど重度の高山病にかかっていたのだ。後はもう必死で彼を担いで下ろしたことしか頭に無い。とにかく必死だった。ロッジに着いてしばらくするとニマは一人での勘違いしたのか私達に向かって激怒してきた。まったく訳がわからず困ったと同時に呆れてものも言えなかった。なにかお金のことで勘違いをしているらしい。病人がいるすぐ横で大声を張り上げているニマに、なんて非常識な男だろうと腹が立ってならなかった。結局お金を握らせて黙らせる。ほんと疲れる、非常に内容のつまった一日である。

9月26日

この日でルクラまでいかななくてはならない。なにせ明日の便でカトマンズまで帰るのだから。なんとか清水のお尻をひっぱたきながら元気のまだ戻らない体に鞭を打った。

ルクラについたのはもう辺りは暗くなってからであった。もう2人ともへとへとに疲れていた。まるで血尿が出そうなくらい。今日でガイドのニマともお別れである。残ったガイド料を渡す時にもひと悶着あって、最後まで後味の悪いガイドであった。さっと最後の山食をロッジで食べてから無事到着したお祝いに安いウイスキーを飲む、う、うまい。久しぶりのアルコールはすぐに体中を駆け巡り、疲労を忘れさせてくれた。当然清水は禁酒。調子が戻ったら浴びるように飲ませてあげるから心配しなさんなって

9月27日

天気は快晴、今日は予定どおりファーストフライトでカトマンズにかえることになる。

晴れ渡る青空の向こうから、久しぶりに聴くエンジン音がここクラ空港に近づいてくる。一週間程の山生活であったが、いまでは短く感じてしまう。この旅で学んだことは沢山ある、この旅の経験は一生の宝物になるであろう。ここで起きたあらゆる出来事をかみしめながら帰りの機体に乗り込むのであった。

(ちなみにこれは実際に現地で書いたメモを7割くらいそのまま書いています。)

ネパール旅行記

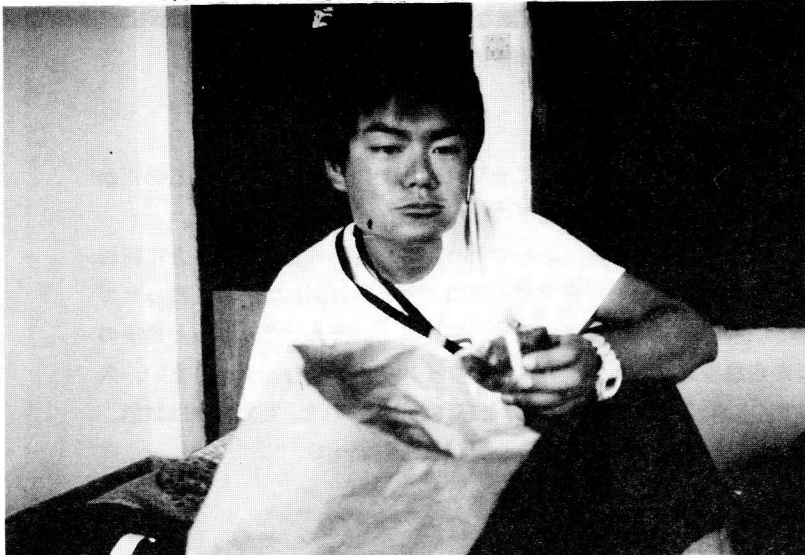
43期 清水 健作

9月17日

AM2:00、矢内さんに送ってもらい金沢駅へ。いよいよ待ちに待ったネパール旅行の出発である。計画から4ヶ月、実際に準備したのは夏合宿後からだった。良く間に合った気がする。急行北国、特急はるかを乗り継ぎ関空へ。ついたら搭乗手続きをする。空港使用税が2850円もした。12:55分日本を脱出。これまで矢田部はチンブンカンブンって感じ。どうやら、旅の間は優位に立てそう。飛行機はB757ロイヤルネパール航空。はっきり言ってぼろい。ラジオすらない。機内食はまあまあだった。けど、生まれてはじめて飛行機に乗る矢田部君にはかわいそ過ぎる。上海に途中立ち寄ったが、グロい清水君のまま上陸。国際線のお酒は無料だからね…。ネパールには10分遅れて18:55に着いた。税関やVISAはかなりいい加減。空港から出て、タクシーの客引きとストリートチルドレンに矢田部はかなりくらった様子。僕もインドネシアで昔戸惑ったな。「しみずけんさく様」のカードを見つけガイドの人と合流、ホテルに送ってもらう。「ホテルヒマラヤンビュー」が旅のベースになりそう。そのあとは夕食。けっこううまい。ビールがおいしくて飲みすぎてしまった。(頼み過ぎた) シャワーはお湯が出るのでけっこう満足。

9月18日

朝…って言うか早朝にダニと工事の音に起こされる。朝7:00の街へパンを買いに行く。しかし、何処も開店前だったのでホテルに戻りオムレツとチャイを頼む。初めて飲むチャイ。紅茶派の僕には嬉しいくらい美味しい。そのあと、フォーシーズンのRajiさんに会う。この人は父の友人の友人？らしい。日本にいたときからEメールを通じて国内線の手配などを依頼していた。パーミットと航空券と宿代260ドルを払う。チャイをご馳走になる。朝のよりおいしい。そのあとは、ダルバールからアサン広場まで散歩。疲れたので一度ホテルへもどり、今度はタメル地区へ買い出し。地図とザックカバーを手に入れる。矢田部はノースフェースのフリース。多分偽物。帰ってきてからパーミットを取りに再び街へ。ホント疲れてるのでホテルで昼寝。おきてからRajiと話しをする。明日の飛行機が飛ばないらしい。山城を変えることになった。旅はトラブルがあるから面白い？今夜は飲もう…。夕食はチベット料理や。結局は飲まずにライスとカレーとスープモモでRs1000ですます。もしかしたら第七ギョウザの故郷かもしれない、ネパールって。あと、明日のルクラ行きは空港で待つみる事になった。柿の種とTUBORGビールの組み合わせは



【飛行機がとばないと、ホテル代が嵩み、食費を削る羽目になる。山の時間が削られていく。浮かない顔の矢田部君】

GOOD！夕方から雨が強くなった。飛行機大丈夫だろうか？

9月19日

朝 10:00 に空港へ。しかし、フライトはキャンセル。全くこの国は！！るーずという言葉が良くにあう気がする。Rs200 をはらい再びヒマラヤンビューへ。R a j i さんに明日の 7:00 の飛行機を取ってもらう。AB レストランで昼食をとり、郊外へ観光。ボダナートで謎のネパール青年（自称 17 歳）と友達になる。勝手にヒンドゥー教徒以外立ち入り禁止のエリアに入る。侵入後 20 秒でガードマンに捕まる。追い出された後その青年と分けの分からんところに連れていかれる。渋滞していていつまで掛かるか分からなかったのでホテルへ帰る。そしたらホテルまで着いてきた。目的がよく分からなくて怖かった。バスの乗り方はよく分かった。夜はアロマレストランへ。スペシャルフライドライスが無茶うまかった。テラスで食べれたのも良かった。また来ようかな？

9月20日

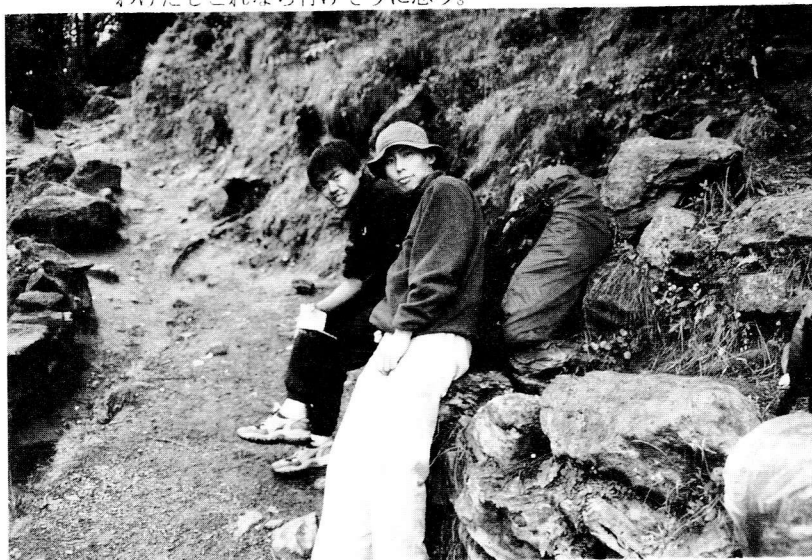
今日は 5:30 に起きて 6:00 に空港へ。タクシーの運ちゃん、無茶怖いっす。っていうか滑ってるしさ〜。飛行機は 1 時間半遅れた。半ば諦めていたので飛んだときは嬉しかったね。30 分のフライト。到着してからガイドを進められる。リコンファームの事もあったし結局雇う事に。名前は「ニマ」という。7 日間だけど 11 日分払う事に。理由は一般的には 11 日掛かるらしいコースを 7 日で以降としているからだ。馬鹿に付き合ってくれてありがとう。10:30 に出発。コースガイドでは 5 時間を 3 時間で通過。でも犬の方が早かった。ロッジはとても快適。あと、シェルバの家族と一緒に食事をした。とても楽しかった。ところで、お金足りるのか？

9月21日

今日はモンジョからナムチェ、そしてタンボチェまで歩く。あさ、Rs 1300 もかかり、少し不安になった。そのためナムチェで \$ 40 両替した。それからタンボチェへ向かう。さすがに体が重く感じられた。しかし、頭痛等の高山病の症状は無い。一応明日ペリチェで高度順応を取ろうと思う。あと、今朝からネパール製の濁酒がお腹を直撃！正露丸を飲み居間は少し落ち着いたみたいだ。やはり、日本人はビールだね。あと、昨日今日と雨又曇りで気温が低いのでつらい。ロッジのストーブが有りがたかった。ちなみに 4 日の行程を 2 日で行った。あとは、下山で時間を稼ごうと思う。

9月22日

朝、食事をとっているとニマが「ケイ、健さん、Come on.」と言ったので表へ出てみると快晴！そして遠くにはでもはっきりとエベレストが見えた。感動。写真を取りまくる。昨日までの疲労感が飛んだ気がした。今日の行程はペリチェまで。しかし途中のパンボチェで少し頭痛を感じたので、そこで泊まることにした。カラパタまでは厳しくなった。そこで、ニマから近くのタボチェ（6490M）*に登らないかと提案。あしたペリチェへ。そして翌日にパンボチェに戻りさらに翌々日アタックというプランだ。順応日を 3 日取るわけだしこれなら行けそうに思う。



【貴重な清水君と二人で撮った写真。

* 尚、地図と照合、標高、所要時間から考えて 5202 mP のことのように。】

9月23日

この日はペリチェまで行くつもりでしたが途中でまた頭痛が始まり矢田部と分かれて3日後にナムチェで落ち合う事となった。とりあえず今日はパンボチェのロッジまで戻ることにした。昨日と同じ部屋を取ってもらい、横になった。(後から聞いた話では高山病は寝てしまうと悪くなるらしい。)一度起きてガーリックスープが効くと聞いていたので飲む。また寝たら、寒気がして起きる事に、熱があるらしい。しかも結構高め、変な咳もで出した。とにかく辛い。生まれてはじめて死ぬかも…って気分になった。独りということが余計にその思いを強くした気がする。とりあえず、明日下山するので熱だけは冷まそうとタッパと手ぬぐいを持ち5分歩いて川に水を汲みに行った。頼れるのは自分だけだった。寂しかった。

9月24日

朝起きてゆで卵2個とお茶チャパティーと言うパンを頼む。パンは半分残した。そして1000m高度を落とすためにブンギ・ティンガという村を目指す。下っていれば何とも無いが上りが5mあれば息が上がり休憩というありさまだった。途中初日のロッジで一緒だったガイドの親友にあう。10ドルで荷物をやると言い出した。ネパールでの10ドルは良いお金だがすんなり払うことに。今の自分にとってはものすごく有りがたかった。一緒に話をしながら下った。覚えているのは、この前ガイドした相手が高山病になって自腹で2000ドルだしてヘリを呼んでやってくれど死んだからお金が帰ってこなくて困ってる、と言う話。あとは、下痢で体力が無いときは高山病に掛かりやすいと言う事も言われた。とりあえず、助けも有り無事つくことが出来た。

9月25日

朝8時ブンギ・ティンガを出発。今日中にナムチェに行かないと矢田部と合流できない。とは言っても1本道なので心配は無いけど。ナムチェまでは600mの上り。昨日同様5分歩いては休憩みたいなペースだった。なんか途中腕時計を見ながら休憩を取っていたら動いていない事に気付く。一体何時かと思い聞いてみると「2時」!!自分の時計は10時を指していた。一体どれくらい歩いたのか全く分からなかった。そして、体力的に動けなくなっていた。しばらくして矢田部とガイドに追いつかれ僕を見て何でここにおる?って顔をされた。そのあと、近くの村でニマがポーターを2人雇ってきた。もちろん自分を運ぶため。その日のうちにナムチェを過ぎジョッサレ(2805m)まで運ばれた。自分はその時まで事の重大さに気がついていなかったが、ホントに死にかけていたらしい。

9月26日

飛行機が1日早くなったので、今日中にルクラまで戻る事になった。歩けるとこは歩き、上りとかは矢田部の背中。命の恩人になってしまった。病気で苦しかったけど、矢田部はもっと苦しかっただろう。ルクラの直前の急登では、2日前に荷物を持ってくれた人まで僕を運んでくれ何とか到着。感謝以外に言葉がありませんでした。ささやかな打ち上げのあと、爆睡しました。

9月27日

朝1番のフライトでルクラを出発。30分後には懐かしいカトマンズに無事到着。でも少し歩くと息が上がる感じ。まずはじめにRajiの所へ行きチャイを飲みながら色々あった話をし、その後矢田部が人から聞いてきた「スロベニアゲストハウス」というRS100の宿に泊まった。とりあえず、まだ体が重かった。昼過ぎまでは一人で寝て昼から美味しいダルバート屋にいき食事を取った。少しは食べれるようになってきた。ここで、旅の疲れを癒すべくカトマンズ唯一の温泉?に行って来た。お湯熱過ぎ!シャンプー泡立たない!だまされてる気がした。ついでにアンマをやってもらった。夜はモモとビールで打ち上げ。そのあとは、早めに寝た。

9月28日

この日は土産を買うためにバクタプルという隣町までバスで行った。物価が少し安い。曼荼羅学校を見学したりした。あと、現地の人と道端でチェスを打ったりした。結果は散々だった。

